

施策評価シート（令和5年度実績）

施策名 20 安全で便利な道路交通環境をつくる

			施策コード	030020
1. 施策の体系と担当課				
第5次総合計画	将来像	3 みんなでつくる 安全・安心で快適に暮らせるまち		
主管課	都市整備部 道路整備課			
関係課				

2. 施策の目標	
10年後の目標	
広域的な道路交通ネットワークの構築により、人や物の流れが効率化され、移動の利便性が高まっています。 生活関連道路の改修・整備や橋梁の長寿命化・耐震化が計画的に行われるとともに、歩行者や運転者の交通安全意識や交通マナーが高まり、安全で円滑な交通環境が保たれています。	
10年後の目標に向かっての主な取組み	
市の取組み	
○歩道のバリアフリー化や既存道路の改良など、安全で利便性の高い道路環境の整備に取り組みます。 ○橋梁、道路の耐震化、長寿命化による安全な道路環境を確保します。 ○歩行者の安全確保のため、幅員が狭い道路は地元及び警察との協議により一方通行等の交通規制や、部分的な拡幅などを行います。また、歩道やカーブミラー、ガードレール、グリーンベルトなどの交通安全施設の整備を進めます。 ○警察と連携し、学校をはじめ、町会・自治会や各種団体などを対象に市内全体で交通安全教育を実施します。 ○ICTを活用し、道路や橋梁の安全情報を市民と双方向で共有できるシステムの導入をめざします。	
市民・団体・事業所等の取組み	
○道路の補修が必要な箇所などの情報を道路管理者に伝え、安全な道路環境の形成に協力します。 ○交通安全講習会などに積極的に参加し、交通安全に対する意識の高揚に努めます。 ○交通法規を遵守し、交通マナーを高めます。	

3. 施策を取り巻く状況	
社会環境や法令等の変化	
本市が管理する道路や橋梁の老朽化は深刻な問題であり、計画的な維持補修が必要である。特に、橋梁については5年に1回の法定点検の結果を踏まえた橋梁長寿命化修繕計画に基づく長寿命化工事及び地域緊急交通路に架かる橋梁の耐震化工事を着実に進めて行く必要がある。また、高齢者の交通事故件数割合が増加傾向にあり、交通マナーのさらなる啓発強化と歩道のバリアフリー化や交差点改良など安全対策の推進が課題となっている。	
新たな市民ニーズ	
道路の舗装の老朽化が進んでおり、地元町会や住民からの舗装改修のニーズが増加傾向にある。また、通学路や生活道路における歩道整備やグリーンベルト設置や車の速度抑制等安全対策についての要望も年々高まってきている。	

4. 施策にかかるコスト								
			単位	R4予算	R4決算	R5予算	R5決算	R6予算
コスト の内訳	投入人員	正職員数	人		16.07		14.38	
		会計年度任用職員数			0.0		0.0	
	人件費	直接人件費	千円		89,877		96,421	
		間接人件費			11,234		3,027	
	直接事業費			537,239	456,632	472,918	403,014	474,567
	間接事業費				1,381		1,354	
	フルコスト				559,124		503,816	
財源 内訳	使用料及び手数料	千円		233	209	112	254	100
	国庫支出金			72,375	57,872	95,700	59,290	44,250
	府支出金							
	市債		275,900	235,900	208,700	176,800	247,200	
	その他		7,672	5,309	7,931	6,125	5,882	
	一般財源 1（＝フルコスト －特定財源）			259,834		261,347		
	一般財源 2（＝直接事業費 －特定財源）		181,059	157,342	160,475	160,545	177,135	
備考								

5. 施策の成果指標							
成果指標1		市内交通事故件数					
単位	目標年度	目標値	指標数値の目指す方向	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	令和5年度		減少	260	298	290	290
成果指標2		放置自転車の撤去台数(原付バイク含む)					
単位	目標年度	目標値	指標数値の目指す方向	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	令和5年度		減少	2	176	160	150
成果指標3		駐車場利用台数					
単位	目標年度	目標値	指標数値の目指す方向	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	令和5年度		維持		137	140	140

6. 施策を構成する事務事業ごとの評価結果（令和5年度実績）										
事務事業名	最重要指標			事業費				方向性		所見
				人件費						
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度（見込）			
交通安全啓発事業 （道路）	交通安全教育等の参加人数			1,859	1,907	1,976	2,153	成果	A：向上を図る	交通安全の啓発について警察・安全協会と取組む。近年は子供の自転車事故や高齢者の自動車事故が増えており、関係部局との連携した取り組みも必要と考える。
	R5実績	4,149	人					資源配分	B：現状維持	
	最終目標値に対する達成率	－		4,844	3,162	8,494	0			
放置自転車対策事業 （道路）	放置自転車の撤去台数（原付バイク含む）			11,873	12,987	12,466	10,772	成果	B：現状維持	放置自転車の撤去台数が減少しており、担当課によるパトロールや啓発活動の成果であると考え。今後においても活動を継続するとともに受け皿となる駅周辺での駐輪場整備を進める。
	R5実績	176	台					資源配分	C：縮小や統合を検討	
	最終目標値に対する達成率	－		2,376	2,603	2,079	0			
駐車場維持管理事業 （道路）	駐車場利用台数			1,433	2,091	2,221	2,585	成果	B：現状維持	現年度分については滞納が発覚した時点で契約者と接触し、早期の回収を図っている。過年度分についても粘り強く催告を行っている。
	R5実績	137	台					資源配分	B：現状維持	
	最終目標値に対する達成率	100.0%		2,317	2,319	1,354	0			
道路等管理事務事業 （道路）	市道認定道路の総延長			19,826	13,098	13,422	11,686	成果	B：現状維持	市が管理する道路などは年々増加すると共に老朽化しており、DX活用による維持管理の高度化・効率化は必須と考える。
	R5実績	291.4	km					資源配分	C：縮小や統合を検討	
	最終目標値に対する達成率	－		15,540	15,379	13,824	0			
道路等施設管理事業 （道路）	駅前広場等の樹木剪定、草刈り、散水等の時間数			12,679	12,930	11,762	15,057	成果	B：現状維持	全ての市民の方にとって快適な通行空間となるよう、舗装状態の確認や道路付属施設の点検、街路樹の剪定などを適宜実施している。
	R5実績	643	時間					資源配分	B：現状維持	
	最終目標値に対する達成率	－		1,754	3,120	5,031	0			
通行等障害物撤去事業 （道路）	不法投棄物撤去件数（二色、東山、市内管理道路上：直営）			60	99	51	110	成果	A：向上を図る	通行に支障となる障害物を速やかに撤去するためパトロールの強化を図るとともに悪質な不法投棄に関しては警察への被害届の提出も検討する。
	R5実績	22	件					資源配分	B：現状維持	
	最終目標値に対する達成率	－		523	0	183	0			
道路新設改良事業 （道路）	道路改良・舗装工事実施延長			119,688	189,899	137,435	159,666	成果	B：現状維持	事業の有効性を見極め、緊急性の高いものから、優先的に実施している。
	R5実績	2,780	m					資源配分	B：現状維持	
	最終目標値に対する達成率	－		23,985	22,246	17,912	0			
交通安全施設管理・整備事業 （道路）	グリーンベルトの設置			24,525	24,806	25,261	25,415	成果	B：現状維持	地域（町会）からの安全施設整備要望は増加しており、優先順位をつけて実施としている。
	R5実績	772	m					資源配分	B：現状維持	
	最終目標値に対する達成率	－		7,149	6,019	6,675	0			

橋梁新設改良事業 (道路)	橋梁長寿命化・耐震化のための設計委託・工事実施橋梁箇所数			114,311	129,453	127,577	172,500	成果	未入力	貝塚市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁の耐震化・長寿命化を計画的に進めている。
	R5実績	3	箇所							
	最終目標値に対する達成率		-		13,276	8,130	8,391	0	資源配分	
道路維持補修事業 (道路)	維持対象市道延長（実延長）			67,463	69,362	70,843	74,623	成果	未入力	道路の不具合に対する通報があれば早急に現場確認を行い、迅速に補修作業を実施している。
	R5実績	284.6	km							
	最終目標値に対する達成率		-		6,645	38,133	35,505	0	資源配分	

7. 施策の事後評価	
施策指標の分析（達成状況）	概ね達成。
構成事務事業に課題はないか	特になし。
実施主体（国・府や地域・事業所などとの役割分担）に課題はないか	特になし。

8. 今後の方向性	
担当部長の所見	公共インフラの維持管理コストは増加の一途を辿っている。今後においてはDX技術の導入によるコスト縮減についての検討が必要と考える。
担当副市長の意見	道路新設改良や道路安全施設等は、必要性、実現可能性などの観点から優先順位をつけ、進めていく。公共インフラの維持管理のための予算、人材の確保が厳しくなっていることから、DX技術の研究、群マネなどの市町村の枠を超えた広域化などに取組んでいく。